

柴崎龍吾著「子どもは社会の鏡Ⅱーラジオ&トーク教育相談 Q&A」上毛新聞社、

2013 年 3 月 15 日刊を読む

Q：学習塾講師の社会的使命とは？

私はある学習塾で講師をしています。私の社会的使命は、子どもたちを第 1 志望の高校に合格させることと信じて、10 年近く、働いてきました。でも最近、本当にこれで良いんだろうかと悩むことが多くなりました。合格実績やテストの成績も大切ですが、多感な 10 代の若者に、ほかに教えるべきことがある気がしてならないのです。このことを同僚に話したところ、「考え過ぎだよ」と一蹴されてしまいました。同業の大先輩として、先生の意見をお聞かせください。

ラジオネーム GTA さん(30 代男性)

A：——まさに、教育に関するご相談です。

1. そんな大先輩でもないんですが。「GTA」さん、私も同感ですね。私も最近まで教壇に立っていたのですが、決して合格だけを目標にしてたつもりはないです。高校合格を最終目標にすると、合格した途端に子どもは満足してしまっ、何かこう、やる気を失ってしまう子が多いんですね。大学入試、就職試験もそうで、入試、試験というのは、そこに入るための入り口でしかないので、やはり何々大学を最終目標にしてると、その大学がダメになった途端に、なんか自分を落後者のように感じてしまっ、自分を失敗者みたいに思っ引きこもってしまったり、自信を失ってしまう子がとても多いような気がします。ですので、私はいつも教えるときに、最終目標を受験とするのではなくて、その先の目標のための一つの一里塚みたいなことを、うちの講師は常に意識しろと。受験勉強というのは、自分がこれからの人生で目標を成し遂げていくための良い練習だと思うんです。受験していくためには、何々高校・大学を狙うためには、やはり夢、目標が先になればいけません。自分は何のために勉強してるんだろう、何で何々大学に行くんだろうっていうのを考えなければいけませんから、それが受験生にとっては、すごいプラスだと思います。塾の先生は、それをまず生徒とよく話し合っ刺激し合う必要があると思います。

2. あとはもう一つのプラスは、受験勉強をするのに目標を立てますから、その時にプランを立てて、やってみて、チェックをしてみ、ダメだったら修正して改善をしていくという、いわゆる人生の中で、いろいろな仕事をしていく上の PDCA をしっかりと自分の中で常に考えていく。点数が伸びなかったら、何がいけなかったのか、勉強の仕方がいけなかったのか、という良い練習ですよ。あとは、受験という同じ目標にみんなで向かうことで、人々が刺激し合う、生徒同士が刺激し合う。塾っていうのは、そんな良い場だと思うので、そう大きく考えて、講師をしていってもらえると、子どもたちは受験をしながら成長していく。そういうプラスの方に、ぜひ考えてもらいたいな、と思います。

P138 ~ 139

[コメント]

うすい学園 学園長 柴崎龍吾先生の最新の教育論。学習塾の社会的使命とは何か、柴崎先生から学ばせて頂きたい。

— 2013 年 4 月 15 日 林 明夫記 —